

桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

＜火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続＞

本日（4日）、11時00分に昭和火口で爆発的噴火¹⁾が発生しました。この噴火により、桜島島内の鹿児島市古里町から有村町にかけての範囲（昭和火口から南側約3km）で、最大約4cmの小さな噴石²⁾（火山れき³⁾）が降下し、十数台の車でガラスが割れる被害が発生しました。

今のところ大規模な噴火が発生する兆候は認められませんが、昭和火口および南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石および火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

平成24年3月21日に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）の切替を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴煙などの表面現象の状況（図1）

本日（4日）、11時00分に昭和火口で爆発的噴火が発生し、やや多量の噴煙が火口縁上2,800mまで上がり南方向に流れました。

・降灰および小さな噴石（火山れき）の状況（図2、図3）

鹿児島地方气象台が本日実施した現地調査および聞き取り調査の結果、桜島島内および垂水市では小さな噴石（火山れき）と降灰を確認しました。小さな噴石（火山れき）はやや強い風の影響により昭和火口から南側に流され、桜島島内の鹿児島市古里町から有村町にかけての範囲（昭和火口から南側約3km）に降下しました。小さな噴石（火山れき）の最大は約4cmで、十数台の車でガラスが割れる被害が発生しました。また、垂水市役所付近（昭和火口から南南東側約10km）では、約5mmの小さな噴石（火山れき）が確認されました。

- 1) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または气象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。
- 2) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 3) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や气象台ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。この資料は气象台のほか、九州地方整備局大隅河川国道事務所、京都大学のデータを利用して作成しました。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平23情使、第467号）。



図 1 桜島 鹿児島地方気象台から見た昭和火口の噴火の状況
噴煙上昇中の状況（4日11時06分頃）
やや多量の噴煙が火口縁上2,800mまで上がり、南方向へ流れました。



図 2 桜島 島内の鹿児島市古里町付近（昭和火口から南側約3km）の状況

- 左上図：最大約4cmの小さな噴石（火山れき）
- 右上図：小さな噴石（火山れき）で破損した車のガラス
- 左下図：小さな噴石（火山れき）で破損した車のガラス（赤丸）
- 右下図：降灰の状況

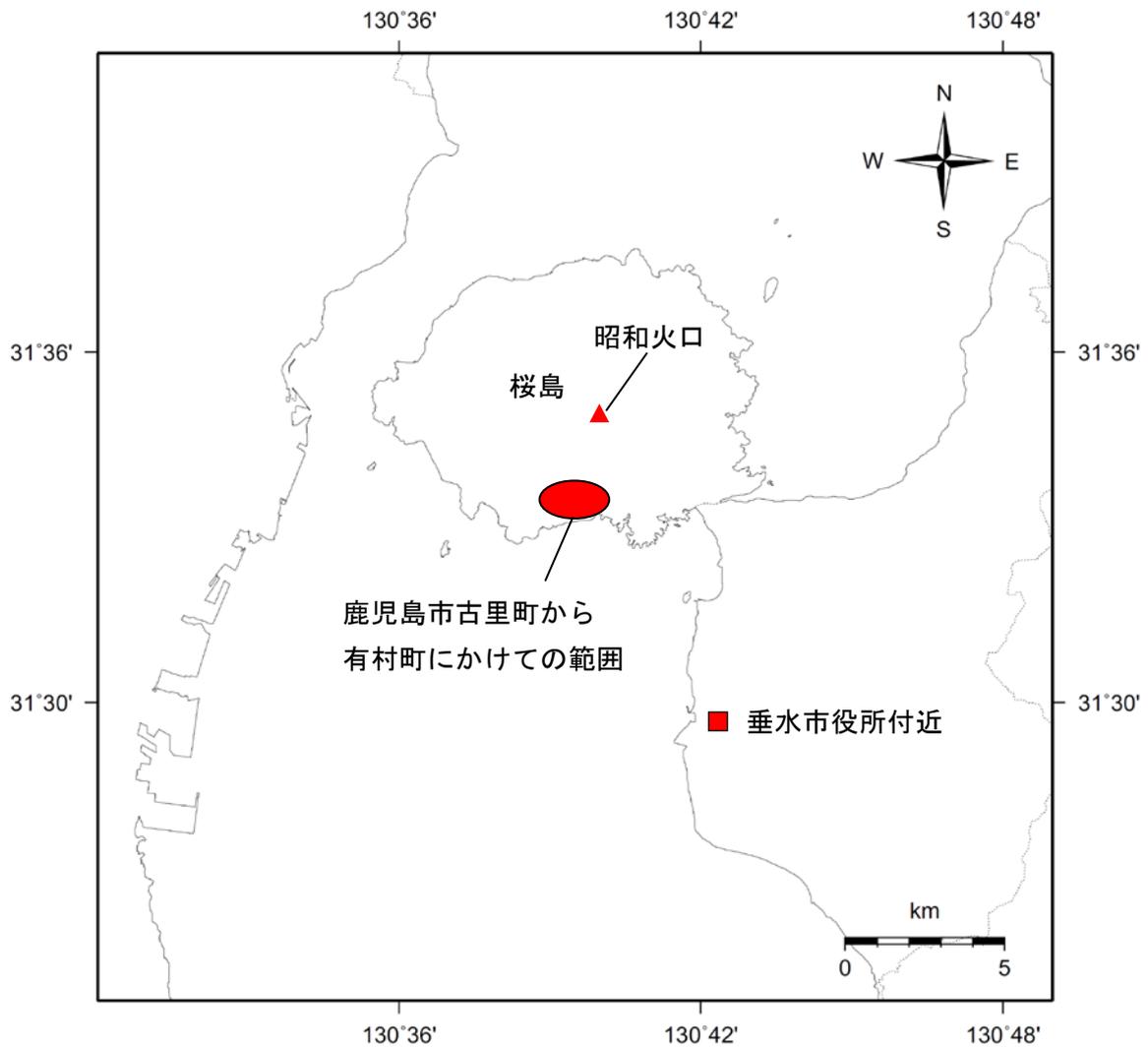


図3 桜島 小さな噴石（火山れき）が確認された場所

鹿児島市古里町から有村町にかけての範囲（昭和火口より南側約3km）では、最大で4cm程度の小さな噴石（火山れき）を確認しました。垂水市役所付近（昭和火口より南南東側約10km）では、約5mmの小さな噴石（火山れき）が確認されました。

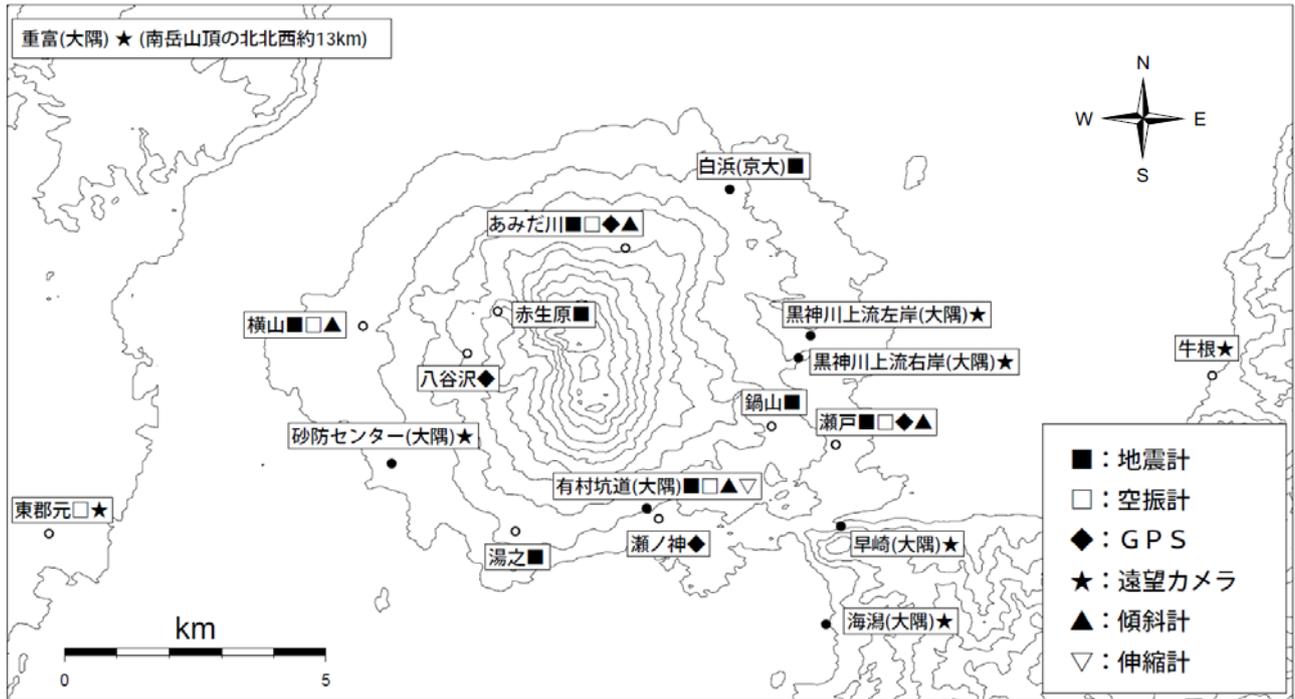


図 4 桜島 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(大隅) : 大隅河川国道事務所設置、(京大) : 京都大学防災研究所設置